

《研修レポート》

平成19年度 新規採用職員研修を受講して

総務部 人事課

田中 理恵



平成19年4月2日から4月9日まで新規採用職員研修を受講しました。2日の午前中に入局式を終えた後、そのまま慌ただしく研修所へ向かい、国土交通省の職員になったという実感もないまま始まった研修生活でしたが、そこで過ごした8日間は、十分に中身の詰まった、いろんな意味で内容の濃いものだったように思います。

研修の前半では講義により、公務員の使命と心構え、公務員制度、公務員倫理、組織人としてのマナー、四国地方整備局各部の業務内容等について学びました。これらの講義を通じて、国家公務員としての責任の重さを改めて自覚すると共に、四国地方整備局の一員になったという実感を持つことができました。特に業務内容についての講義では、四国地方整備局の向かうべき方向性やビジョンなどを聴き、これからの四国において整備局が担っていく役割の大きさを感じました。また講義や懇親会などで、先輩職員の方々と直接お話をする機会も多く、職場の雰囲気や現場の生の声を聞くことができたのも、業務に対する不安や疑問でいっぱいだった私にとっては貴重な時間となりました。

研修後半戦の現場実習においても、高知県北嶺地方での間伐やまんのう公園での接客、整備局管轄の現場見学など、普段できないようなさまざまな体験をし、知識だけではなく、自分の目で見て肌で感じて学ぶことができました。特に整備局が現在行っている事業については、資料などで目にする機会はありましたが実際に見たことはなく、その事業規模の大きさに改めて、整備局の及ぼす影響力や責務の重さを感じました。また現場実習の際に一泊した高知県大川村では、幹部の方達を囲んで同期生全員で飲みながら夜遅くまで語り合い、それぞれに新たな一面を発見し、とても楽しい夜だったのを覚えています。

この研修を通じて、これから働く上で大切なことをたくさん教えてもらいました。8日間という短い期間ではありましたが、私には十分すぎるくらい充実した研修となりました。そしてなにより、同期生と一緒に学び、飲み、語って過ごした研修生活は、私にとってとてもいい思い出です。同期だからこそ共感できる思いをぶつけ合いつつ、これからもそういった同期のつながりをずっと大切にしていきたいです。

研修を終え、はや2ヶ月が経ちました。職場の雰囲気には慣れたものの、まだまだ仕事を理解できていない面も多く、失敗と努力を繰り返しながら日々勉強の毎日を送っていますが、優しい先輩方に見守られながら、少しずつですが確実に成長していきたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、研修係長はじめ四国技術事務所の皆様、講師の方々など、たくさんの方のおかげで、無事研修を終えることができました。研修を支えてくださったすべての方に、この場を借りて心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。